

研究発表2 -

家族同時内観療法を通して解決し得た親子関係3例

奥村弓恵<sup>1)</sup> 伊藤恵理<sup>1)</sup> 小坂ひとみ<sup>2)</sup> 市嶋優紀<sup>3)</sup> 太田耕平<sup>4)</sup>

1)心理士 2)看護師 3)作業療法士 4)医師

医療法人耕仁会札幌太田病院 内観療法課

1.はじめに

当院では、思春期症は病棟内内観療法(以下内観)後、家族同時内観(以下本法)を実施している。親子関係の回復に有効である。

2.症例

A子 14歳。不純異性行為、化粧で登校。家族は継母、実父、妹。幼少期に両親離婚、父が引き取った。A子が小2時再婚。中1~不登校、中2~不純異性行為。転校後も改善しない為、冬休み期間当院に医療保護入院。初日から院内学校、運動療法参加。2日目内観導入。12日目、両親来院し本法実施。A子は「転校で親を恨んだが、私のためだった」と反省した。両親は「甘えさせずごめん」と詫びた。17日目に退院。3ヶ月後現在、順調に登校。

B子 15歳。不登校。家族は両親、妹。中学入学後、勉強、部活、習い事の両立が困難となった。成績低下に伴い難聴が出現。中1~不登校。部活、習い事は辞めた。精神科に1年通院したが改善せず、当院入院。初日から内観導入。挫折体験を傾聴した。7日目、当院から登校開始。12日目、両親と妹来院し本法実施。B子は「自己中心的だった」と詫びた。両親は「B子が頑張り過ぎたことに気付かずごめん」と伝えた。15日目に退院。2ヶ月後現在、経過良好。

C男 16歳。不登校、暴言。家族は両親、弟。中2~喫煙、暴言出現。高校~不登校。2ヵ月後当院に医療保護入院。初日から運動療法参加。2日目内観導入。5日目、両親と弟来院し本法実施。C男は「育ててくれてありがとう」と語り、両親は「C男の悩みを理解しなかった」と伝え、互いに情動あった。6日目、両親、教員、職員の送迎で当院から登校。14日目に退院したが、不登校、親への暴言再燃。6ヶ月後現在、本人希望で転校の準備中。暴言は落ち着いた。

3.考察

家族間の交流不足、親の過干渉から、子は孤独、不安、目標喪失となった。父・母性が欠如した家庭は、子の問題を解決できず、不登校、暴力などが進行し家族全体の病理になる。親子回復には、相互の認知修正が重要である。

参考文献

1) 太田耕平, 湯沼誠二: うちの子に問題はないか! . 北海道教育者 . 1984

2) 太田耕平: 幼児から高齢者までの心の発達十段階心理療法 . 第11版 . 医療法人耕仁会 札幌太田病院 . 2011